

巡 検 報 告

高知巡検

森 田 友 美 子

高知城、よさこい祭り、坂本龍馬、土佐ノ海、広末涼子……でもやっぱり、高知といえば“土佐がつお”だろう。とにかく、私はカツオ節が大好きだ。幼い頃、カツオパックを抱えてパクパクつまんでいたのを今でも覚えている。

「日本の食文化はカツオ節なしには語れない」そんな強い信念を抱きつつ、森田&山見の『カツオ節徹底研究』は始まった。

平成8年8月8日午前6時、土佐清水市内の旅館を出発。早朝にもかかわらず、私たちはメチャ元気だ。これも昨日の晩ご飯のおかげである。宿泊費8千円ほどの小さな宿だが、家庭的な料理の味は格別だった。カツオのたたきをはじめ、新鮮な海の幸が盛りだくさん。「なんだこれは？…ん、うま〜い！」などと連発しながら、夢中で食べ続けた。横のTVからは「寅さん死去」という全国的ショッキングなニュースが流れている。だが、私たちの箸は止まらない。こんなに感激しながら食べることは、一生のうちにそう何度もないだろう。

そんな訳で、私たちは幸せ気分いっぱいの朝を迎えた。この日案内してくれたのは、市長秘書の萬（よろず）さん。彼から一枚の紙を手渡された。『高知県の地場産業に関する視察研修』と題された日程表だ。「なぜ、私たちなんかにここまでしてくれるの？」と、あまりの親切さにまたまた感激。

出発後まもなく、窪津漁港に到着。私たちにとって今回の巡検の最大の目的は“漁船に乗ること”なのだ。ところが、この日は台風が来ているため搭乗を断念しなければならなかった。すごくやしかった。船酔いして、吐いてもいいから乗

せてもらいたかった。これだけが今でも心残りだ。

次に行ったのは、カツオ節加工場、事前に研究していたカツオ節製造過程を実際に見学した。長い期間と多くの人の手がかかって、ようやく出来る上がるカツオ節。値段が高いのも納得できる。それはそうと、私たちはこの巡検で、カツオ節にかなり詳しくなれた。これほどカツオ節のことをよく知っている若者はめったにいないのでは……何だかちょっぴりうれしくなった。

再び、漁港で働く人々の様子を視察し、最後に漁師のお宅で聞き取り調査をした。（詳しくは巡検報告冊子『南国探訪』を）

この日は一日中、萬さんに案内されるがままだった。おまけに、足摺岬の温泉にまで招待された。帰りには、市長さんから『ジョン万次郎』という地酒までいただいた。まさにいたれりつくせりといった感じだ。そんな待遇にいい気になっていたが、今思えばもう少し自分たちで動くべきだったのでは…。私たちは、かわいがられすぎてしまったらしい。

4日の“日曜日”から9日の“よさこい祭り”まで、様々な場所に行き、たくさんの人に出会った。この高知での6日間、暑かったー！そして、幸せだった♡

高知の人々は、み～んな生き生きしている。本当にいいひとばかり。これには、高知の風土とよさこい祭りが、一役買っているのだろう。訪れる人の気持ちをスカッとさせ、元気を与えてくれる。高知はそんなところだ。

漁師の嫁？……う～ん、いいかもしれない。

(1996年8月5日～9日:主指導教官 内田忠賢)